

研究テーマ	学び合いを生かした 想像力を広げる授業展開の工夫 —第5学年「その場くん」登場」の実践を通して—
-------	---

行方市立要小学校 教諭 河野仁美

I 研究テーマのついて

本学級の児童は、図画工作への関心は高いが、想像画に対する苦手意識が強い。そこで、5学年の教材「その場」くん登場」を通して、想像画への苦手意識を緩和し、楽しく展開できるような授業展開を工夫したいと考えた。

また、本校では今年度、国語科において「学び合い」をテーマに研究を進めている。ペア学習やグループ活動、全体での話し合い活動等を生かし、児童一人一人が主体的に、かつ積極的に学習に取り組む姿が多く見られるようになった。児童の様子を見てみると、苦手なことでも、友達の意見をヒントに自分の考えを導き出すことができるようになった児童や、得意分野の場合は、困っている友達を気かけながら活動できるようになった児童などが見られるようになった。

そこで、図画工作科においても、発想や構想の段階で「学び合い」を生かした学習を取り入れることで、児童同士の学び合いの中で、一人一人の世界観が広がり、想像力も養われるのではないかと思い、上記のテーマを設定した。

II 研究テーマの実際

1 題材名 「その場」くん登場

2 題材の目標

- ・さまざまな場所の特徴に興味をもち、目線や向きを変えて「顔」を探して楽しもうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- ・見つけた場所の面白さや特徴を味わい、表したいことを見つける。 (発想や構想の能力)
- ・「顔」の形や色、「場所」の様子から、思いついた場面の表し方や動きを工夫する。
(創造的な技能)
- ・感じたことや思いついたことの違いやよさを味わい、伝え合う。 (鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童の実態

下記のアンケート結果を見ると、本学級の児童は、図画工作科への関心は高いことが分かる。しかし、工作が好きとする児童が多い一方で、想像して描く活動が苦手と答える児童が多い。想像して描く活動がなぜ苦手なのか質問すると、「何を描いていいかわからない」「思いつかない」などと答える児童が多かった。このようなことから、想像して描くことへの苦手意識を少しでも軽減できるよう、展開の工夫をしたい。

図工は好きですか？	
はい	8人
どちらかといえばはい	3人
どちらかといえばいいえ	1人
いいえ	0人

児童の実態調査（男6名，女6名 計12名 9月24日実施）

図工で好きな活動は何ですか？	
工作	10人
目で見たものを描く	2人

図工で苦手な活動は何ですか？	
想像して描く	8人
目で見たものを描く	4人

(2) 題材観

この題材は、学校の中のさまざまな場所から、「顔」に見えるところを探し、カメラで撮影する。見つけた「顔」の形や色、や「その場」の様子などから思いを広げ、「その場」くんは、どんなところで何をするのか、思いついたことを絵に表す活動である。普段は使わないデジタルカメラの使用や、身近な場所に隠れる「顔」を探し出す活動は、児童の意欲を喚起する活動となる。いつもと違った位置から「もの」や「場所」を眺める楽しさを味わいながら、児童同士の語り合いを大切に展開していきたい。このような活動を見つけた顔の面白さや場所の特徴から想像したことを通して考える力、くふうする力を養うことができる。

(3) 指導観

本学級の児童は、想像して描く活動を苦手としている児童が多いことから、想像するまでの材料やヒントとして、友達の世界観や本、インターネットなどの情報を多く用意できるようにする。見慣れている場所やものでも、見方を変えると新たな発見がある楽しさに気づかせるようにする。「顔」の発見という視点だけでなく、その場所やものの特徴を味わいながら話し合い、自分の表したいイメージを見つけ広げていくことを理解して取り組めるようにする。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
さまざまな場所の特徴に興味をもち、目線や向きを変えて「顔」を探して楽しもうとする。	見つけた場所の面白さや特徴を味わい、表したいことを見つけることができる。	「顔」の形や色、「場所」の様子から、思いついた場面の表し方や動きを工夫することができる。	感じたことや思いついたことの違いやよさを味わい、伝え合うことができる。

5 指導と評価の計画（6時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価基準・【評価方法】
第1次 ①	「いろんな「顔」を見つけよう！」 ・ペアでさまざまな場所で「顔」を探し、カメラで撮影する。	さまざまな場所の特徴に興味をもち、目線や向きを変えて「顔」を探して楽しもうとする。 関【活動の様子】

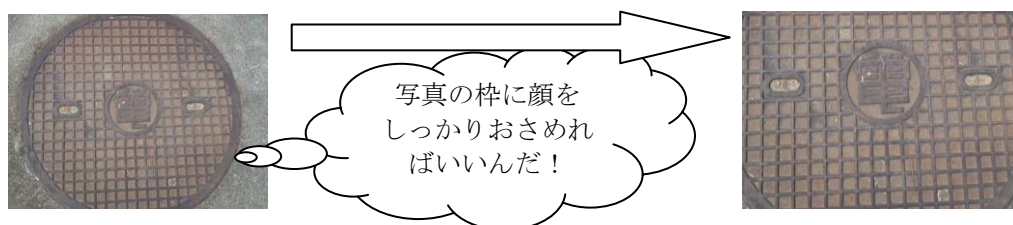
第2次 ④	「自分だけの「その場」くんを作りだそう！」 ・自分のおすすめ画像の紹介 ・どんな世界や生き物が考えられるか話し合う。	見つけた場所の面白さや特徴を味わい、表したいことを見つけることができる。 発【発表・学習カード】
	「「その場」くんの世界を考えよう！」 ・自分なりの「その場」くんの世界観を考え、下書きを描く。	見つけた場所の面白さや特徴を味わい、表したいことを見つけることができる。 発【下書きしたワークシート】
	「「その場」くんの世界をえがこう！」 ・作品を描く。	「顔」の形や色、「場所」の様子から、思いついた場面の表し方や動きを工夫することができる。 創【作品】
第3次 ①	「みんなの「その場」くん集合！」 ・友達の作品を鑑賞して、良さを見つけたり、自分とは違った世界観に気付いたりする。	感じたことや思いついたことの違いやよさを味わい、伝え合うことができる。 鑑【発表・鑑賞カード】

6 指導の実際

① デジタルカメラやICTの使用

まず、見本を見せるために「ここはどこでしょうクイズ」を行った。学校内の様々な教室や校庭などにある場所で、「顔」に見える部分を探して行った。すると、場所はわからない部分をもあったが、「人の顔みたいで怖い!」「ロボットに見える!」などの感想も出て、興味をもつ導入となった。わからない場所は、あえて答えは言わずに、児童に自分たちでも探してみるよう促した。

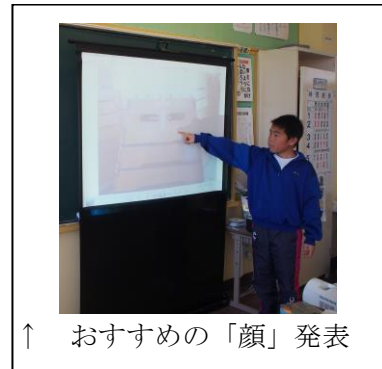
また、ペアに一つずつデジタルカメラを渡して、「かお」探しを行った。自由にとらせた後、一度全員で確認すると、「かお」になっていない写真もあった。どうしたら「かお」になるのかをみんなで話し合い、再度「かおになるように、しっかり写真の枠におさめる」ということに注意しながら、「顔」探しに行った児童は、1時間熱心に活動していた。



そして、それぞれが集めてきた「顔」の画像を全体でチェックしながら、それぞれのペアのおすすめ画像を紹介しあった。その中で、実際に何に見えるか?どんな場所にいると思うか?などの意見を出し合った。この活動を事前に行ったことで、次時の「どんな世界」、「どんな生き物」が考えられるかの意見が出しやすかったようである。



↑ 「顔」探しをする子ども達の様子



↑ おすすめの「顔」発表

① 学び合いを通して想像力を広げる工夫

学び合いは主に、ペア学習やグループ活動、全体での検討の場面などで取り入れた。自分たちの撮った写真を見ながら、下書きのヒントになる「世界」と「生き物」リストを作った。各グループで「どんな世界があるのか」「どんな生き物がいるのか」を出し合うことで、自分の使いたい写真を決めるきっかけになったり、どんな世界にいるどんな生き物を描きたいのかを考えたりするきっかけになった。

そして、下書きが完成したときに、ペアやグループでアドバイス交換を行った。やり方は、下書きを見て、疑問に思ったことや質問、「自分だったら…」というアイデアを付箋に書いて貼っていく活動である。すると、子ども達は自分の考えた世界観に、友達からもらった良い意見を取り入れながら、手直しを加えていき、下絵を完成させていた。このように自分と他人の考える世界観の違いに気付くことで、自分の世界観を広げることができた。

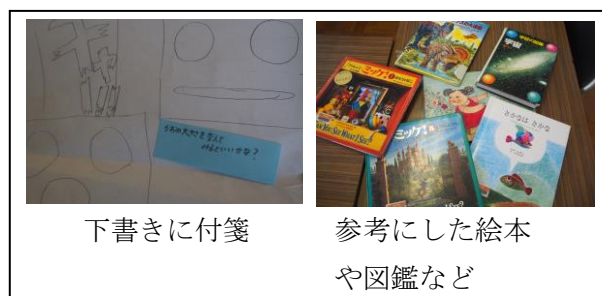
また、学び合いではないが、その他にもインターネットや図書室等にある本（絵本・図鑑など）を参考に、下書きを作成する児童も見られた。描きたい絵の分からないところを調べたり、世界は決まったけれど生き物が決まらない児童は、図鑑などの写真を参考にしていた。このような活動の中でヒントをもらいながら、一人一人の下書きの世界観が変化していった。



グループ活動や発表の様子



アドバイスし合いながら活動する様子



下書きに付箋

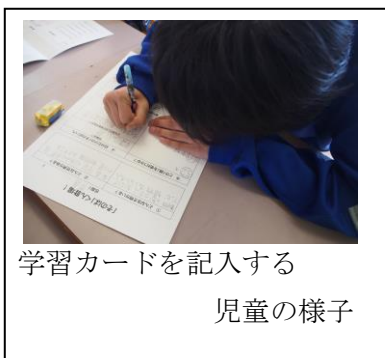
参考にした絵本
や図鑑など

③ 使用する写真の種類や大きさの選択

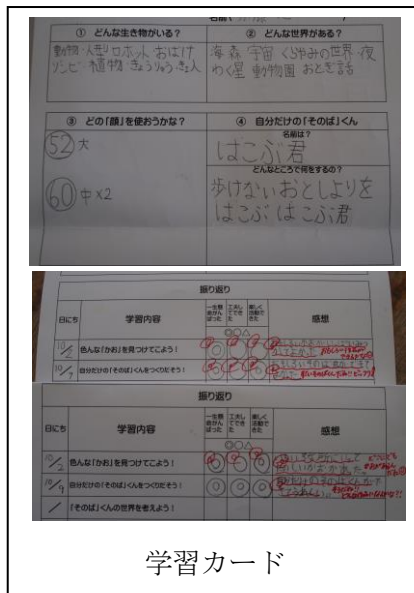
自分なりの「その場」くんを考えていく過程では、90種類以上ある顔の中から、自分の描きたい世界や生き物も含めて選択していった。どんな生き物なのか？その生き物はどこでどんなことをしているのか？学習カードを使用しながら、一人一人の「その場」くんが完成していった。

また、写真の大きさは4種類から選択した。初めは「大・中・小」の3種類だったが、児童から「もっと小さい物がほしい」という意見があったので、「極小」を追加し、自分の使いたい顔、使いたい大きさまで考えた。「選択する」という作業は、児童の関心や意欲を高める活動だと感じた。

また、「大と小を使って親子にしたい！」など、大きさを変えられることで、児童一人一人の作品に対する世界観も広がったように思う。



学習カードを記入する
児童の様子



学習カード



大きさの選択

II 研究の成果と課題

(研究の成果)

- 「想像して描く」活動が苦手だという児童が多かったため、描くまでの活動を多く取り入れた。結果、苦手だと言っていた児童も「楽しかった」と答えていたので、描くまでの活動の工夫が大切だと改めて感じた。
- 楽しかった活動を聞いてみると、写真を撮ったり選んだり、友達と相談しあう活動が楽しかったと回答する児童が多かった。それらの活動の中で、自分なりのイメージが広がり、絵を描く活動が楽しく感じるようになったのだろう。

「その場くん」の学習は楽しかったですか？	
はい	11人
いいえ	1人

どんな活動が楽しかったですか？	
○ 写真を撮る活動	12人
○ 話し合う活動	9人
○ 写真を選ぶ活動	9人
○ 絵を描く活動	10人
○ 鑑賞の活動	8人

